

2022 年度秋期

スーパーバイザー士筆記試験

2023 年 1 月 18 日 (水) 実施

13:30~14:30

3. 財務・問題解決

(該当講義 講義③、⑥、⑦)

答案作成上の注意

- ◇ 解答用紙の所定の欄に氏名を記入してください。
- ◇ 係りの合図があるまではこの表紙をあけないでください。
- ◇ 解答は解答用紙に記入してください。
- ◇ 試験時間は 60 分です。
- ◇ 試験開始後 30 分で退出できます。
- ◇ 退出される際には、出入口にいる事務局員に解答用紙を提出してください。
- ◇ 再入場はできません。



一般社団法人

日本フランチャイズチェーン協会

財務諸表の知識(税務含む)

【問題 1】 配点 24 点 (各 2 点)

次の①～⑩の取引から解答用紙の貸借対照表と損益計算書を作成しなさい。特に記述のない場合には、それぞれの取引は現金で行ったこととする。なお、解答にあたっては数字の単位に十分気をつけること。

- ① 当社は 01 年 4 月 1 日に資本金 3,000,000 円で設立した。決算日は 3 月 31 日。今期の事業年度は 01 年 4 月 1 日～02 年 3 月 31 日(以下、「今期」という)
- ② 今期の売上高は 62,000,000 円であり、このうち 3,000,000 円は未回収である。
- ③ 今期の仕入高は 18,000,000 円であり、このうち 2,000,000 円は未払いである。
- ④ 02 年 3 月 31 日に商品の棚卸しを行った結果、仕入金額ベースで 1,800,000 円分あった。
- ⑤ 今期の役員・従業員に対する給与は総額で 24,000,000 円であった。
- ⑥ 01 年 4 月 1 日に金融機関から 20,000,000 円借り入れた。返済期間は 7 年。今期中に返済した元本の額は 3,000,000 円であり、今期はこの元本返済の他に支払利息 400,000 円を支払った。
- ⑦ 固定資産(器具備品)の購入価額は 20,000,000 円であり、01 年 4 月 1 日から事業用として使用している。
- ⑧ 上記⑦器具備品の耐用年数は 10 年(定率法による償却率は 0.20)。定率法により今期の減価償却費を計算すること。
- ⑨ 今期に支払った家賃は 6,000,000 円。
- ⑩ その他今期の諸経費として 7,800,000 円支払った。

【問題 2】 配点 6 点

上記の【問題 1】⑦で購入した固定資産(器具備品)については、01 年 4 月 1 日～02 年 3 月 31 日の事業年度において 1 年分の減価償却費の計上を行った。この資産を 03 年 3 月 31 日まで引き続き保有していた場合における 02 年 4 月 1 日～03 年 3 月 31 日の事業年度における 1 年間の減価償却費を求めなさい。償却計算を行う場合の償却方法及び償却率に変更はなく、計算結果に 1 円未満の端数が生じた場合には、その都度切り捨てることとする。

02 年 4 月 1 日～03 年 3 月 31 日事業年度における器具備品 1 年間の減価償却費の額

	円
--	---

貸借対照表 02年3月31日現在

科目	金額 (円)	科目	金額 (円)
現預金	()	買掛金	()
売掛金	()	(長期)借入金	()
商品	1,800,000		
器具備品	20,000,000		
減価償却累計額△	4,000,000	資本金	3,000,000
器具備品差引残高	()	経常利益	()
資産の部合計	()	負債・準資産の部合計	()

損益計算書(01年4月1日～02年3月31日)

	金額 (単位:円)
売上高	62,000,000
仕入高	18,000,000
期末商品棚卸高	1,800,000
売上原価	()
()利益	45,800,000
販売費及び一般管理費	
給与	24,000,000
減価償却費	4,000,000
地代家賃	6,000,000
諸経費	7,800,000
販売費及び一般管理費計	41,800,000
営業利益	4,000,000
支払利息	()
経常利益	()

【問題 3】 配点 10 点 (各 5 点)

中古取得した資産の減価償却計算を行う場合の耐用年数は、その資産の残存耐用年数を合理的に見積ることが原則となっていますが、実際には「合理的に見積もること」が困難な場合が多くみられます。そこで税務実務においては、次の表の方法で計算した耐用年数を使用することができるものとしています。

【簡便法による耐用年数計算】

法定耐用年数の全部を経過している場合	法定耐用年数×20/100
法定耐用年数の一部を経過している場合	(法定耐用年数－経過年数) +経過年数×20/100

(注) 上記算式で 1 年未満の端数は切捨て、また、2 年未満となった場合は 2 年とします。

前述をふまえて以下の解答欄に指定された減価償却費の額を解答しなさい。

計算結果に 1 円未満の端数が生じた場合には、その端数を切り捨てることとする。

減価償却対象資産：中古乗用自動車（前の所有者が既に 3 年使用したもの）

- ・ 取得価額：2,000,000 円
- ・ 償却方法：定率法
- ・ 新品の乗用自動車の法定耐用年数：6 年
- ・ 毎期の事業供用月数：12 か月

【定率法償却率】

法定耐用年数 6 年＝0.333、法定耐用年数 5 年＝0.400、法定耐用年数 4 年＝0.500、
法定耐用年数 3 年＝0.667、法定耐用年数 2 年＝1.000

【定額法償却率】

法定耐用年数 6 年＝0.167、法定耐用年数 5 年＝0.200、法定耐用年数 4 年＝0.250、
法定耐用年数 3 年＝0.334、法定耐用年数 2 年＝0.500

1 年目の 減価償却費	2 年目の 減価償却費
円	円

計数管理の知識

【問題 4】 配点 18 点 (各 2 点)

次の文章を読み、正しいものに○、誤りのあるものに×を解答欄に記入してください。

- ① 総資産経常利益率は運用している総資産でどの位の経常利益を生み出したかを示す。
- ② 売上高営業利益率の向上は営業外収益を向上させ営業外費用の低減により実現できる。
- ③ 固定資産回転率の改善のためには、売上高の向上を図ることが重要である。
- ④ 損益分岐点比率が 100%を下回った結果、赤字が拡大したと判断できる。
- ⑤ 損益分岐点の引き下げは、変動費率の引き下げと固定費の引き下げにより実現できる。
- ⑥ 安全余裕率は、損益分岐点に達するまでの余裕の程度を表す。
- ⑦ 流動比率は 100%以下が最低必要水準である。
- ⑧ 日本の中小企業の固定長期適合率は、120%程度が平均的水準である。
- ⑨ 自己資本比率向上のため収益性を改善し利益を上げて内部留保することが重要である。

【問題 5】 配点 12 点 (各 3 点)

下表は FC 加盟のカフェ店の月次損益計算書です。原材料費や人件費、光熱費の上昇に伴い営業利益が減少しています。次の文章の空欄に適切な記号を語群より選択し、解答欄に記入して下さい。

項目		金額 (千円)	構成比
売上高		6,988	100.0%
売上原価		2,885	41.3%
売上総利益		4,103	58.7%
販売費・一般管理費		3,758	53.8%
販管費の内訳	人件費	1,876	26.8%
	水道光熱費	482	6.9%
	販売促進費	50	0.7%
	減価償却費	288	4.1%
	地代家賃	750	10.7%
	その他経費	102	1.5%
	ロイヤリティ	210	3.0%
営業利益		345	4.9%

当店の損益分岐点売上高は、売上原価を変動費、販売費・一般管理費を固定費とすれば(①)になる。したがって、損益分岐点比率は(②)である。固定費及び変動費率に変化がない前提で、営業利益 500 千円を確保するためには目標売上高は(③)、営業利益 700 千円では目標売上高は(④)が必要になる。

< 語 群 >

A.6,402 千円	B. 6,571 千円	C.6,911 千円	D.7,253 千円	E.7,594 千円	F.91.6%
G.94.0%	H.98.9%	I.103.8%			

問題解決手法

【問題 6】 問題にはいくつかの型がありますが、以下の記述で正しいものを選びなさい。

配点 2 点

- ア) 発生型問題とは、現状をもっと良くしたいというところから生じる問題である。
- イ) 探索型問題は、原因志向型問題とも呼ばれている。
- ウ) 設定型問題とは、現在設定している目標との差異が生じた場合の問題を指す。
- エ) 逸脱問題は、発生型問題のうちのひとつのパターンである。
- オ) 未達問題は、設定型問題のうちのひとつのパターンである。

【問題 7】 問題を把握するために必要なものはどれか、以下から選びなさい。

配点 4 点 (各 2 点)

- ア) あるべき姿 (目標)
- イ) 原因
- ウ) 現状
- エ) 課題

【問題 8】 MECE になっているのはどれか？

配点 2 点

- ア) 飲み物は、ノンアルコール飲料とアルコール飲料に分解できる。
- イ) 飲み物は、清涼飲料と炭酸飲料に分解できる。
- ウ) 飲み物は、お酒と炭酸飲料に分解できる。

【問題 9】 定量的に分解する場合、間違っている式はどれか？

配点 4 点 (各 2 点)

- ア) $\text{売上高} = \text{客数} \times \text{客単価}$
- イ) $\text{営業利益} = \text{売上総利益} - \text{固定費}$
- ウ) $\text{売上総利益} = \text{売上高} - \text{変動費}$

【問題 10】 原因究明について以下の記述で正しいものはどれか？

配点 2 点

- ア) 原因は問題を裏返すことで容易に究明できる。
- イ) AMTUL は、原因究明のフレームワークとして有効である。
- ウ) 原因を絞り込む際には、以前と比較して変化の大きい要素を特定することがポイントとなる。

【問題 11】 配点 5 V が行う問題解決に関する以下の記述について、正しいものはどれか？

配点 6 点 (各 2 点)

- ア) SV は、本部の理念や方針を正しく理解していなければならない
- イ) SV にとって、加盟店の売上を上げることが最も重要であり、利益までは考慮する必要はない
- ウ) SV は担当店舗の問題を店長に代わって解決する存在である
- エ) 問題が発生したら、まずは「なぜ (Why) ?」と問いかけるべきだ
- オ) 細かい原因分析を行ったうえで対策を考えるよりも、経験に基づいた対策をすぐに実施する方が大切だ
- カ) SV は、常に正しい解決策を加盟店に提案しなければならない
- キ) 担当店舗の問題解決は、オーナーや店長と問題の共有を行うことが出発点である
- ク) 問題の細分化は、原因がわかりづらくなるため行うべきではない
- ケ) SV は個人プレーなので、担当店舗の問題解決の実績を他の SV と共有する必要はない
- コ) 問題解決を正しく行うには、真の問題とはなにかを明確にすることが重要だ

【問題 12】 配点 10 点 (各 2 点)

以下の文章の空欄に正しい言葉を語群から選びなさい。

問題解決を図るうえで、解決策をいくつか列挙した中から優先順位の高いものを選択する際には、リスク、(①)、実現可能性、(②)、(③) をそれぞれ評価して絞り込んでいきます。

チェーンとして、問題解決のノウハウ化を進めるためには、問題解決の (④) と成果を記録に残し、(⑤) にかかわらず組織的に情報共有を行う体制を整備することが重要です。

<語群>

結合改善	成果	成果度合い (効果度)	コストバランス	アウトプット	プロセス
スピード	信用度	成功・失敗	大・小	個別に	取り組み